



タイム
スリップ!

きょうりゅう い じだい 恐竜が生きる時代へ

テリジノサウルス類の恐竜 P.12

ペンギンなどと同じように
集団で巣をつくる

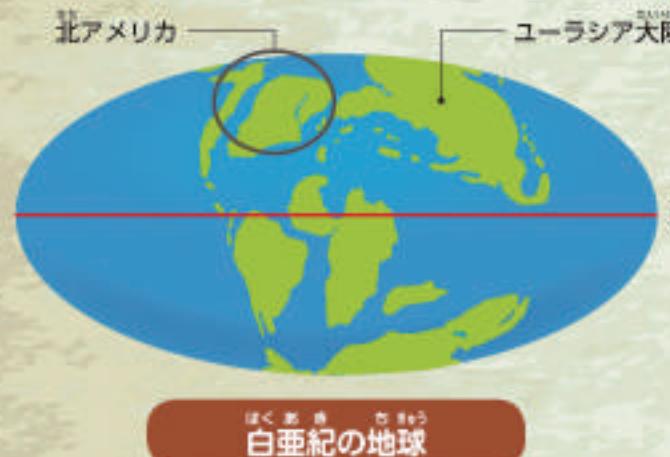
直径13cmほどの洞を
3~30個産む

卵に土をかけて
地熱で温める



白亜紀後期のモンゴル。産卵シーズンをむかえた獣脚類の
テリジノサウルス類が、集団で巣をつくっています。卵は
土の中で温められていて、親は巣のそばで、卵どろぼうを
追いかけて卵を守っています。

中生代のモンゴルと恐竜



ゴビ砂漠は恐竜のすみかだった!

中生代のはじめ、パンゲア（第1巻）という大きな1つの大陸が、分裂をくり返し、やがていくつかの大陸ができました。現在のアジアはジュラ紀にローラシア大陸（P.28）の一部になり、白亜紀に北アメリカと分かれます。しかし、最北部は陸続きだったため、アジアと北アメリカ西部との間を移動する恐竜もいました。現在のモンゴルの南に広がるゴビ砂漠には、当時、豊かな水と緑が広がっていたため、たくさんの恐竜が生息していました。最近では、巨大な前あし以外はなぞたったティノケイルスの新たな骨格や、オヴィラブトロサウルス類シティバティ（P.13）の卵をだいた化石が見つかるなど、保存状態のよい恐竜の化石が続々と発見されています。

大発見!

おなかから大型の胃石！

植物を食べる恐竜は、効率よく消化ができるようにわざと石を飲みこみました。おなかの中で石同士がこすれ、植物を細かくくださいます。ティノケイルスのほか、竜脚類などにも同じようなことがみられます。

獣脚類		オルニトミモサウルス類
ティノケイルス		
<i>Deinocheirus</i>		
「おそろしい手」		
全長：約11m		白亜紀後期
発掘地：モンゴル		

はじめに見つかった前あしの長さが2.4mもあることから巨大な肉食恐竜と考えられ、「おそろしい手」という学名がつきました。





ココがすごい!!

てんてき ティノケイルスとその天敵

なぞの恐竜
きょうりゅう
ショウタイイハッカク
正体発覚!!

ねん ざがた 50年ぶりに姿がわかった!

はっけん じょん きょたい まえ おお
発見からおよそ50年、巨大な前あしの形だけしか
わからなかつたなぞの恐竜ティノケイルス。近年、
ようやく全身の姿がわかつてきました。その姿は巨
かい まえ そらすう
大な前あしから想像していたものとはちがいました。

ティノケイルス

ひら 平たいくちばし

トリケラトプス
鳥脚類のカモノハシ竜(P.14)
に似た、平たいくちばしで、歯
はありません。

きよだい まえ 巨大な前あし

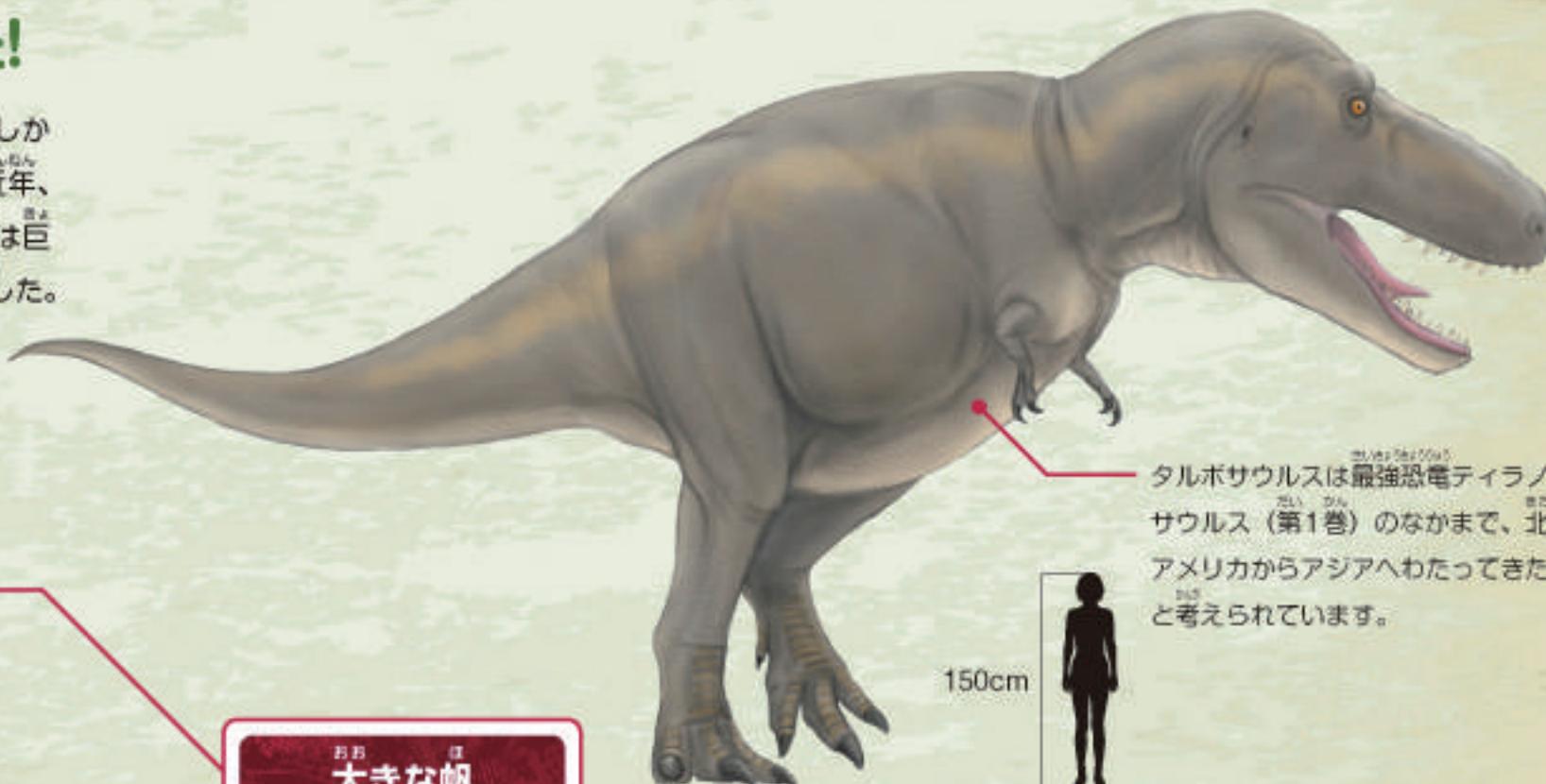
長さ2.4mもある前あしで植
物を集めたと考えられています。

どろ ある うし 泥でも歩ける後ろあし

トリケラトプス
指は鳥脚類のカモノハシ竜に似たつくり
で、ぬかるみを歩くのに役立ったと考
えられています。

てんてき 天敵はタルボサウルスだった?

ティノケイルスの骨には、アジア最大級の肉食恐竜タルボサウルス
にかまれたと思われる傷が残っていました。



タルボサウルスは最強恐竜ティラノ
サウルス(第1巻)のなかまで、北
アメリカからアジアへわたってきました
と考えられています。



うもう 羽毛でアピール

尾の先に羽毛があったことがわ
かっていますが、近縁種と同じよ
うに前あしや体にも羽毛があった
と考えられています。